

第141回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想記点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 約束手形の割引を行った場合には、受取手形を減額し、利息相当額については、手形売却損として処理する。
2. 当座預金口座を開設し、手数料を支払った場合には、支払手数料として処理する。
3. 前期貸倒処理済みの債権を当期に回収した場合には、償却債権取立益として処理する。
4. 中古の自動車を販売目的で取得した場合には、仕入として処理する。仕入原価は購入代価に付随費用を加算した額となるため、1,210,000円が仕入原価となる。また、商品の仕入に関する未払額であるため、「買掛金」で処理することに注意が必要となる。
5. 固定資産税の納付は、租税公課勘定で処理する。

第2問

当座預金勘定及び当座借越勘定の作成は、当座預金の残高不足になる時点をしっかり計算できるかがポイントとなる。

当座預金勘定及び当座借越勘定の残高は下記の通りである。

1月 4日：700,000円（前期繰越）－200,000円＝500,000円

1月 7日：500,000円－500,000円×1/2＝250,000円

1月13日：250,000円－400,000円＝△150,000円

※ 150,000円は当座借越勘定に振替える。

1月18日：△150,000円＋350,000円＝200,000円

※ 150,000円の当座借越を返済し、200,000円を当座預金勘定に振替える。

1月25日：200,000円＋450,000円＝650,000円

1月27日：650,000円－300,000円＝350,000円

1月29日：350,000円－30,000円＝320,000円

第3問

本問は、月初残高に12月中の取引を加算し、12月末の残高を記入し、試算表を作成する問題である。以下、仕訳を示す。

1. 現金に関する取引

a.	(借) 現 金	150,000	(貸) 当 座 預 金	150,000
b.	(借) 現 金	110,000	(貸) 前 受 金	110,000
c.	(借) 前 払 金	80,000	(貸) 現 金	80,000
d.	(借) 仮 払 金	15,000	(貸) 現 金	15,000
e.	(借) 発 送 費	2,000	(貸) 現 金	2,000
	(借) 支 払 家 賃	80,000	(貸) 現 金	108,000
f.	(借) 通 信 費	15,000		
	(借) 水 道 光 熱 費	13,000		
g.	(借) 所 得 税 預 り 金	3,000	(貸) 現 金	3,000
h.	(借) 現 金	1,000	(貸) 仮 払 金	15,000
	(借) 旅 費 交 通 費	14,000		

2. 当座預金に関する取引

a.	(借) 当 座 預 金	150,000	(貸) 受 取 手 形	150,000
b.	(借) 当 座 預 金	400,000	(貸) 売 掛 金	400,000
	(借) 当 座 預 金	118,000	(貸) 受 取 手 形	120,000
c.	(借) 手 形 売 却 損	2,000		
d.	上記1. a. で処理済			
e.	(借) 仕 入	200,000	(貸) 当 座 預 金	200,000
f.	(借) 支 払 手 形	140,000	(貸) 当 座 預 金	140,000
g.	(借) 買 掛 金	300,000	(貸) 当 座 預 金	300,000
h.	(借) 借 入 金	500,000	(貸) 当 座 預 金	505,000
	(借) 支 払 利 息	5,000		
i.	(借) 給 料	300,000	(貸) 当 座 預 金	295,000
			(借) 所 得 税 預 り 金	5,000

3. 仕入れに関する取引

a.	上記2. e. で処理済			
b.	(借) 仕 入	60,000	(貸) 支 払 手 形	60,000
c.	(借) 仕 入	550,000	(貸) 買 掛 金	550,000
d.	(借) 仕 入	120,000	(貸) 前 払 金	120,000
e.	(借) 買 掛 金	30,000	(貸) 仕 入	30,000

4. 売上に関する取引

a.	(借) 受 取 手 形	180,000	(貸) 売 上	180,000
b.	(借) 前 受 金	200,000	(貸) 売 上	200,000
c.	(借) 売 掛 金	900,000	(貸) 売 上	900,000
d.	(借) 売 上	10,000	(貸) 売 掛 金	10,000

5. その他の取引

a.	(借) 発 送 費	3,000	(貸) 現 金 過 不 足	3,000
b.	(借) 貸 倒 引 当 金	8,000	(貸) 売 掛 金	8,000
c.	(借) 仮 受 金	100,000	(貸) 売 掛 金	100,000

第4問

決算振替仕訳後の資産、負債及び純資産の各勘定残高を集計し、その借方合計と貸方合計の一致を確かめる資産表のことを決算後試算表という。決算後試算表は決算整理後残高試算表とは異なる。決算整理後残高試算表は資産、負債、純資産、収益および費用が集計されるのに対し、決算後試算表は資産、負債および純資産が集計される。

しかし、実務的には決算後試算表と繰越試算表になんら変わりはないため、決算後試算表にかえて繰越試算表が作成されるため、繰越試算表でも正解と思われる。

第5問

1. 決算整理前残高試算表の推定

決算整理前残高試算表		平成26年12月31日		(単位:円)	
現金	?	支払手形	400,000		
当座預金	2,725,000	買掛金	600,000		
受取手形	650,000	借入金	2,000,000		
売掛金	800,000	貸倒引当金	10,000		
繰越商品	370,000	資本金	?		
備品	1,300,000	売上	17,000,000		
仕入	12,500,000	受取手数料	30,000		
給料	2,800,000				
支払家賃	900,000				
水道光熱費	240,000				
保険料	174,000				
通信費	96,000				
消耗品費	75,000				
支払利息	20,000				
	?				?

資本金：資本金勘定の差額の3,200,000円となる。

現金：貸借差額により590,000円と判明する。

2. 決算整理事項等

(1) 現金実査

(借) 雑損	10,000	(貸) 現金	10,000
--------	--------	--------	--------

雑損：580,000円(実際有高) - 590,000円(帳簿有高) = 10,000円

(2) 掛代金回収

(借) 当座預金	50,000	(貸) 売掛金	50,000
----------	--------	---------	--------

(3) 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入	4,000	(貸) 貸倒引当金	4,000
-------------	-------	-----------	-------

$(650,000円(整理前T/B受取手形) + 800,000円(整理前T/B売掛金) - 50,000円(上記②)) \times 1\% - 10,000円(整理前T/B貸倒引当金) = 4,000円$

(4) 売上原価の算定

※ 解答の作成上売上原価勘定により仕訳を行う。

(借) 売上原価	12,870,000	(貸) 繰越商品	370,000
		(借) 仕入	12,500,000
(借) 繰越商品	420,000	(貸) 売上原価	420,000

(5) 減価償却

(借) 減価償却費	260,000	(貸) 備品減価償却累計額	260,000
-----------	---------	---------------	---------

$1,300,000円(整理前T/B備品) \div 5年(未償却期間) = 260,000円$

(6) 消耗品の処理

(借) 消耗品	22,000	(貸) 消耗品費	22,000
---------	--------	----------	--------

決算整理前残高試算表に消耗品費勘定があるため、取得時に費用として処理していることが判明する。したがって、未使用分を消耗品勘定に振替える決算整理仕訳を行う必要がある。

(7) 保険料の繰延べ

(借) 前払費用	36,000	(貸) 保険料	36,000
----------	--------	---------	--------

$144,000円 \times 3ヶ月(平成27年1月 \sim 平成27年3月) / 12ヶ月 = 36,000円$

(8) 利息の見越し

(借) 支払利息	4,000	(貸) 未払費用	4,000
----------	-------	----------	-------

$2,000,000円 \times 1.2\% \times 2ヶ月(平成26年11月 \sim 平成26年12月) / 12ヶ月 = 4,000円$

※(7)および(8)の前払保険料および未払利息は、便宜上表示科目により仕訳を行っている。